

集中治療部

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	2 人	(2 人)
診療助教	3 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	6 人	

2 教員の異動状況

土井 松幸（特任准教授）（H24. 2. 1～現職）

小幡由佳子（助教）（H23. 4. 1 ～現職）

御室総一郎（助教）（H23. 4. 1 ～現職）

川島 信吾（診療助教）（H23. 7. 1 ～現職）

植田 広（診療助教）（H25. 11. 1 ～現職）

加藤 弘美（診療助教）（H26. 2. 1 ～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	7.72	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Yagi T*, Naito T, Doi M, Nagura O, Yamada T, Maekawa M, Sato S, Kawakami J: Plasma exposure of free linezolid and its ratio to minimum inhibitory concentration varies in critically ill patients. Int J Antimicrob Agents 42: 329-334, 2013. (IF: 4.415)
2. Kimura T, *Suzuki A, Mimuro S, Makino H, Sato S: Bronchial intubation could be detected by the visual stethoscope techniques in pediatric patients. Pediatric Anesthesia 22: 1185-1190, 2013 (IF: 2.436)

インパクトファクターの小計 [6.851]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ozaki M*, Takeda J, Tanaka K, Shiokawa Y, Nishi S, Matsuda K, Doi M, Kakihana Y, Fujino Y, Takinami M, Kawai M: Safety and efficacy of dexmedetomidine for long-term sedation in critically ill patients. J Anesth 28: 38-50, 2014. (IF: 0.867)
2. 林田賢史, 村上玄樹, 森崎浩, 遠藤重厚, 大塚将秀, 志馬伸朗, 土井松幸, 西田博, 福家伸夫, 山本剛, 羽鳥文麿, 松田晋哉: 診断群分類に基づく診療報酬支払制度データから検討した ICU 収支の現状 (第2報): 生命維持装置使用の有無と在室日数による解析. 日本集中治療医学会雑誌 20: 431-434, 2013. (IF: 0.000)

インパクトファクターの小計 [0.867]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土井松幸: AEP 臨床での使用法. 周術期モニタリング徹底ガイド, 羊土社, 東京 165-167, 2013.
2. 御室総一郎, 土井松幸: ショックの分類と循環動態 西田修 ICU・CCU 看護の超重要ポイントマスターブック メディカ出版、大阪市 p198-207、2013

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- 小林 充, 水野 香織, 小幡 由佳子, 足立 裕史, 佐藤 重仁, 松田 直之、デクスメデトミジンで小線源療法施行中の鎮静鎮痛を管理した 1 例、臨床麻酔 37 巻 5 号 Page825-827(2013)【麻酔】〔0〕
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 25 年度
（1）文部科学省科学研究費	2 件 （310 万円）
（2）厚生労働科学研究費	0 件 （0 万円）
（3）他政府機関による研究助成	0 件 （0 万円）
（4）財団助成金	0 件 （0 万円）
（5）受託研究または共同研究	0 件 （0 万円）
（6）奨学寄附金その他（民間より）	0 件 （0 万円）

（1）文部科学省科学研究費

- 科学研究助成事業（基盤研究（C）），光ファイバーカテーテルを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発，平成 23-26 年度，研究費の総額 520 万円(25 年度 110 万円)
- 科学研究助成事業、基盤研究 C、低酸素再酸素化ストレスが血管内皮細胞機能に及ぼす影響、3 年間、455 万円

（2）厚生労働科学研究費

（3）他政府機関による研究助成

（4）財団助成金

（5）受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（1）特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
（2）シンポジウム発表数	0 件	1 件
（3）学会座長回数	2 件	5 件
（4）学会開催回数	0 件	0 件

(5) 学会役員等回数	0 件	4 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
1. Mimuro S, Oe K: Symposium I 第 30 回環太平洋外科系学会日本支部会学術大会 2013.10.16-19
ハワイ
2. Mimuro S, Oe K: Oral Session I 第 30 回環太平洋外科系学会日本支部会学術大会 2013.10.16-19
ハワイ
- 5) 一般発表
口頭発表
ポスター発表
 Kawashima Y, Yu S, Makino H, Katoh T, Mimuro S, Mochizuki T, Sato S: EFFECT OF
 RESPIRATORY ALKALOSIS ON BUPIVACAINE-INDUCED CARDIAC TOXICITY IN RATS
 ANESTHETIZED WITH SEVOFLURANE WITH OR WITHOUT PROPOFOL NWAC 2013
 World Anesthesia Convention 2013.04.23-27 Bangkok

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
1. 土井松幸. 招請講演「レミマゾラム」. 日本臨床麻酔学会第 33 回大会, 2013.年 11 月, 金沢市
- 4) 座長をした学会名
1. 日本麻酔科学会第 60 回大会 5 月 24 日, 2013 年
2. 第 21 回日本集中治療医学会東海北陸地方会 6 月 15 日, 2013 年
3. 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 11 回学術集会 9 月 14 日, 2013 年
4. 日本臨床麻酔学会第 33 回大会 11 月 1 日, 2013 年
5. 第 41 回日本集中治療医学会学術集会 2 月 28 日, 2014 年

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

土井松幸：日本集中治療医学会：評議員，将来計画委員，社会保険対策委員，個人情報・利益
 相反委員，外保連検査委員

土井松幸：日本麻酔科学会：社会保険専門部会員，外保連検査委員

土井松幸：日本麻酔集中治療テクノロジー学会：評議員

土井松幸：日本蘇生学会：評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
（1）国際共同研究	0 件
（2）国内共同研究	0 件
（3）学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 脳波による中枢神経障害の予後の早期予測法の検討
心肺蘇生後の脳障害の予後の早期予測を目的として、皮質脳波モニターと聴性誘発電位モニターの比較試験を実施した。
2. 重症患者での血液ブドウ糖濃度連続測定を目指して、光テクノロジーを応用する方法と皮下組織のブドウ糖濃度測定を応用する方法の2つの研究を実施した。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 聴性誘発電位モニターは、麻酔深度定量法として長く研究を続けてきた測定法の脳障害予後判定への応用である。
2. 光テクノロジーを用いた血中微量物質定量法の研究成果を基礎にして、ブドウ糖濃度測定法へ応用した。

15 新聞、雑誌等による報道